新春特集

担い手不足どうしてる？

特集テーマの背景には、「高齢化」「人口減少」という社会の変化に加え、小売・飲食業と比べて「サービス業・その他」が急増するなど、商店街の姿の変容があります。

東京都が行った実態調査（**下段のグラフ参照**）によると、都内商店街が抱える課題のトップに後継者不足が挙がる一方、そこに対策を打っている商店街は、ごくわずか。〝若手〟と呼ばれる青年部メンバーの平均年齢が上がっている現状も見てとれます。

若手の創業者が活躍

3期生　栗山 和久さん
烏山駅前通り商店街 理事長
前・世田谷区商店街連合会 青年部長

私は2023年に、15年間務めた世田谷区商連の青年部長を後任へ引き継ぐと同時に、地元・烏山駅前通り商店街（通称えるもーる烏山）の青年部長も次の世代と交代、そして理事長に就きました。

幼い頃より私は周りから「将来は社長さん」と言われて育ちました。うちは酒店から始まった地場のスーパーマーケットで、大学卒業後、明治屋に就職し3年間スーパーの経験を積んだ後、家業を継ぎました。

商店街活動において目の前にある問題としては、イベントの運営など、担い手不足の解消が急務です。自分たちの力だけでは限界があります。もっと商店街の業種構成の変化などに目を向けてみませんか。

今、新しく商店街に入会してくる人たちって、いわゆる物販店など家業の「後継者」というより、自分で事務所を持ったり教室を開いたりする「創業者」が多いんですよね。

こうした若い人材が新たな担い手となり、実際に活躍し始めています。

烏山では、青年部長が私より11歳下の人になりました。あらためて感じるのは、リーダーが若返れば周りにも若い世代が集まってくるということです。

世田谷は、区が商店街へ中小企業診断士を派遣してくれたり、事務局を設置すると家賃や人件費を補助してくれたり、恵まれています。商店街活動の基盤がしっかりしており、青年部を持つ商店街も多い地域です。

世田谷で若手の人材が豊富になったひけつは何かというと、軸はイベントです。青年部が中心となって夏祭りなど実施し、収益が上がれば活動費を捻出でき、また次につながる。青年部は人材を育成する良い土壌となってきました。

入会してきた創業者など、若い人たちと付き合う中で私がずっと大事にしてきたのは、仲間とコミュニケーションを取ることです。けんかもしますが、たくさん話をしてきました。信頼関係をつくってきたからこそ、担い手が増え、役員の後継者も育ってきたと思います。

現在、京王線沿線では連続立体交差事業が進んでおり、千歳烏山駅にも都市計画が控えています。商店街もかなり影響を受けるでしょう。

私は再開発準備組合の理事長も務めており、今後の商業計画づくりや商店街を活用した地域貢献にも関われたらと考えています。より街全体を盛り上げる活動に取り組みたいです。

事務局が一体となって

11期生　吉田 善博さん
高円寺純情商店街 専務理事
東京高円寺阿波おどり振興協会 副理事長

店を継ぐ継がないの後継者問題は、本人の意思や家庭の事情次第のところが大きく、商店街の後継者不足、担い手不足とは別の問題と私は考えています。

高円寺（杉並区）は、2日間で100万人も集まる「東京高円寺阿波おどり」で有名な街。駅前はチェーン店が多いですが、サブカルチャーもあって、高円寺で商売をやってみたいという人はたくさんいます。

店の後継者がいないなら、テナントに出して開業したい人に貸したっていいわけです。

つまり担い手は、既存の店主らに限りません。商店街は、高円寺で店をやりたい人や住みたい人など、外から入ってくる人たちと共にあると思うのです。

そう考えれば、担い手不足はそんなに問題になりません。

高円寺には13商店街あり、阿波おどりに全体で関わるのはもちろん、各商店街が主催するイベント、隣接する複数の商店街で共催するイベント、若い人たちを中心とする実行委員会が主催するものを商店街が連名で協力するイベント、とさまざまな運営主体があるのが特徴です。

私はコンサル業のかたわら高円寺純情商店街で専務理事をしており、補助金の申請など事務局を担っています。中には事務所や事務員のいない商店街もありますから、イベントの時は共催する形で事務局を引き受けたりもしています。

私は自由に動きたい性格でして、もし商店街役員の後継者がおらず理事の人数が減ったとしても、「合意形成に時間がかからず、小回りが利いて、むしろいいじゃない」と感じます。

要は事務局機能さえしっかりしていれば、さまざまな担い手と一体となって組織運営はできると考えているんです。実際、外部の人材に手数料を払って事務をお願いしたりもしながら回してきました。

その点では、もっと東京都の補助金が柔軟に使えるといいですね。51億円（2023年度）も商店街関係予算があるのだから、事務局の人材確保や体制強化など、人件費にも配分されるとうれしいです。

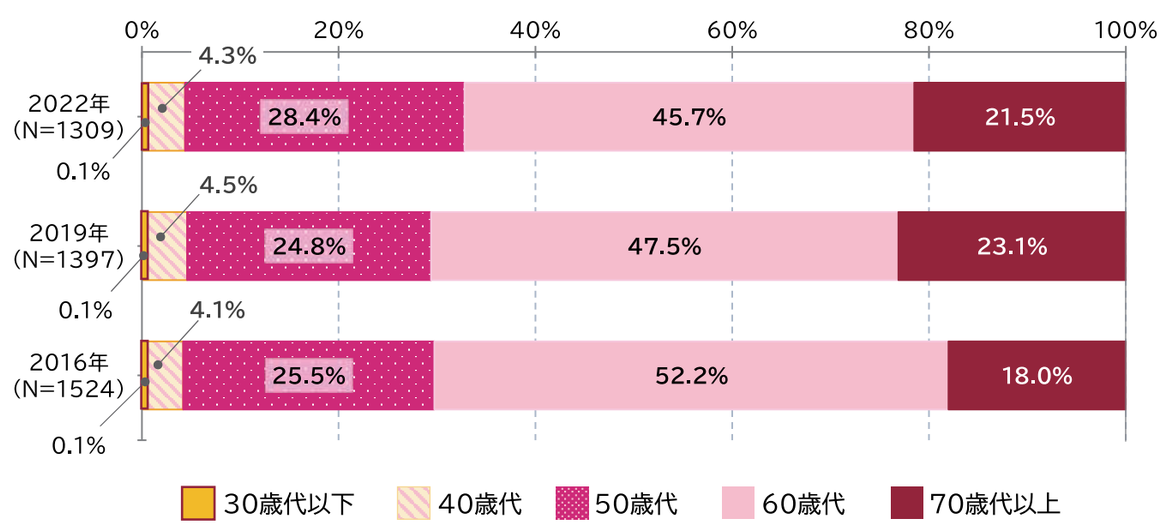
2023年度は、高円寺純情商店街（北口）と高円寺パル商店街（南口）共同で、都の「未来を創る商店街支援事業」に採択されました。最大の地域資源である阿波おどりを活用し、3年かけて地域ネットワークづくりに取り組みます。

「商店街運営」よりも広い「街づくり」の観点から活動を続けたいと思っています。

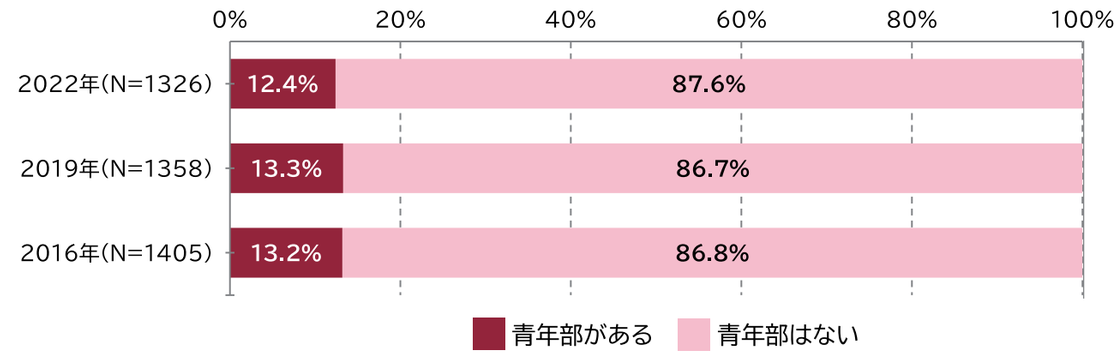
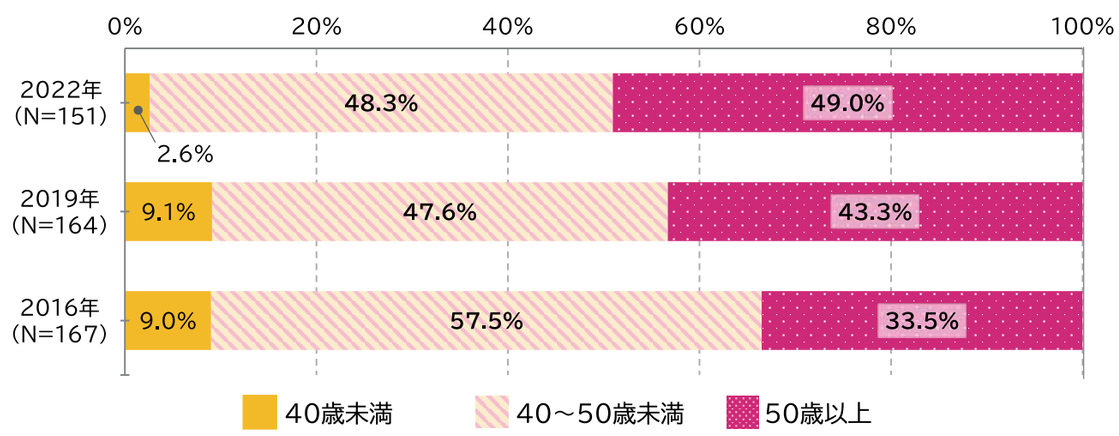
東京都による都内商店街実態調査のポイント

〈調査目的〉都内の商店街の景況や活動状況、課題などを把握するため
1989年から３年ごとに郵送で実施
〈調査対象〉都内の全商店街 2,374（2022年10月現在）
〈調査時期〉2022年10月～2023年１月（結果開示2023年3月）
〈回収結果〉回収数：1,349 件（回収率 60.5%）

❶役員の年齢はどれくらい？



❷青年部の有無は？



❸青年部の平均年齢は？